

講義名	キャリア実践論(3年生のみ)			授業形態	
担当教員	中山 一郎	開講期・曜日・時限	後期 月曜日 1時限		
		単位数	2	履修開始年次	3年生

主題と概要

大学生は、就職という社会への入口に不安を抱いている。学生は多種多様なスキルを評価する就職試験にも戸惑いがある。就活はスタートラインである「何のために働くのか」という働くことの意義を自覚し、その上で社会・企業が求めている社会人基礎能力を中心とした知識と能力を自ら磨いていくことが大切である。就活は3年生の後期から準備が始まり、4年生の前期まで続く(未決の場合は卒業まで続くこともある)。就活対象者は自分の強みや長所を再認識し、志望理由を明確化させる必要がある。また企業が期待する求める人材やコンピテンシーを理解し、自己成長の目標に挑戦していくことが重要となる。授業概要は、自分の強み・弱みを知ること(自己PR)。また、働くことの意義(価値観)、自分にとって良い会社の定義で志望動機を考えること、さらに、自己アピール力、プレゼンテーション力、会話力(面接・グループディスカッション)を高めるために、実践的な演習を交えて展開する。

到達目標

到達目標は、「なぜ働くのか」「あなたの強み」「あなたにとってよい会社の条件」の問いに、しっかりとした考え方を身につけることです。その上で自己PRの作成方法と会社選びの基準づくりを学び、総合的な就職力を高めることができますようになります。
 ・自己PR等の筆記試験対策で得意、不得意分野を自己評価することができるようになります。
 ・自分の強み・弱みの分析から自己PRをまとめることができるようになります。
 ・業界企業を分析し、自己PRと志望動機につなげていくことができますようになります。
 ・就職力を高め、自分の立てた目標設定と就職戦略を策定することができますようになります。

提出課題

毎回授業後に「リアクションペーパー」を提出してもらいます。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

「リアクションペーパー」を提出をした翌回の授業冒頭において、必要かつ可能な範囲でフィードバックを行います。

評価の基準

リアクションペーパー(75%)
 基礎能力テスト/SPI 適性検査(10%)
 平常点(15%)
 15回の授業のうち3分の1以上(5回以上)の欠席者については成績不可とします。
 を総合的に評価します。

履修にあたっての注意・助言他

火2の「キャリア実践論」も同じ名称の授業ですが対象は4年生ですので、3年生は月10の「キャリア実践論」を必ず履修してください。

教科書	.使用しない。				
-----	---------	--	--	--	--

参考図書					
------	--	--	--	--	--

その他	プリント資料及び参考文献に関しては、使用する際に適宜配布、紹介します。
-----	-------------------------------------

授業計画

- 回数と授業計画
- 1 プロローグ-キャリア実践論のねらい-
 - 2 就職活動のキホン(1)-就職活動の流れを知る-
 - 3 就職活動のキホン(2)-就職活動は科学である-
 - 4 企業研究のキホン(1)-会社とは何か-
 - 5 企業研究のキホン(2)-求人票の読み方-
 - 6 自分づくりのキホン-フォーマル・アセスメント-
 - 7 筆記試験対策/SPIのキホン(1)
 - 8 筆記試験対策/SPIのキホン(2)
 - 9 ビジネス研究のキホン(1)-私と企業をつなぐ業界・職種選び-
 - 10 ビジネス研究のキホン(2)-私と企業をつなぐ職種・仕事選び-
 - 11 履歴書・ESのキホン-自己、ガクチカの作り方&書き方-
 - 12 面接対策のキホン(1)-1分間で自己PRをしよう-
 - 13 面接対策のキホン(2)-模擬面接を体験しよう-
 - 14 面接対策のキホン(3)-グループディスカッションにチャレンジしよう-
 - 15 エピローグ-改めて、キャリア実践論とは-
- 履修人数や受講生の期待や特性に応じて、授業内容が変更されることもあります

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア:PBL(課題解決型学習)	イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ:ディスカッション、ディベート	エ:グループワーク
オ:プレゼンテーション	カ:実習、フィールドワーク
キ:その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

1. 授業に関連する本や新聞記事や雑誌を読んだり、ニュースをチェックしたりする習慣を日常的に付け、特にキャリア・就活・労働・雇用・ビジネスなどといったキーワードには注目するようにしておく(毎回1時間)
2. 授業で学んだことの復習や実践(毎回1時間)
3. 基礎能力試験(SPI適性検査)対策(毎回2時間)

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

当該科目は、自分の強み・弱みを知ること(自己理解)、また、働くことの意味や意義(価値観)、自分にとって良い会社の定義で志望動機を考えること、さらに、自己アピール力、プレゼンテーション力、会話力(面接・グループディスカッション)を高めるために、実践的な演習を交えて展開することを目的とした授業であり、いわゆる「就職力を高めるための実践的科目」である。この科目を受講することによって、併における自主・自立の精神を持った人材、知識を知恵に変換できる、論理的思考力を持った人材の育成が達成されると考える。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

質問やアンケートを「レスポ」で回答してもらうことがあります。

実務経験の有無及び活用

実務経験あり
 具体的な事例やケーススタディーを紹介します。

備考
